

# 四日市市楠歴史民俗資料館保存運営委員会

平成17(2005)年、楠町本郷に「四日市市楠歴史民俗資料館」が開館しました。江戸時代に旧本郷村の庄屋を務めた岡田家の土地と屋敷を保存・活用したもので、四日市市指定文化財の主屋・立会所・蔵に加えて、展示棟が併設されています。四日市市楠歴史民俗資料館保存運営委員会は、同家に残る資料の整理・保存のほか、来館者に館内を案内する「語り部」などを行いながら、楠町の歴史・文化を守り、後世へ受け継ぐ活動を続けています。



辻 忠男 委員長

## お問い合わせ

「四日市市楠歴史民俗資料館」  
(月曜日休館)  
四日市市楠町本郷1068番地  
TEL 059-398-3636

今回は、「四日市市楠歴史民俗資料館」にお邪魔して、「四日市市楠歴史民俗資料館保存運営委員会」委員長の辻忠男さんに案内していただきました。辻さんの話からは、楠町への並々ならぬ想いが伝わりました。

——展示棟内にある「常設展示室」では、町の歴史が映像やパネルなどで展示されていて、とてもわかりやすいですね。室内には、岡田家の古文書も展示されていますが、同家と楠町との関わりについて教えてください。

辻：岡田家の祖先は、南北朝時代に築かれた楠城(当時は楠山城)の初代城主である、諏訪十郎貞信(正信)の家臣だっ

子どもたちには大変好評です。鴨居の「槍架け」なども珍しいと思います。



電話機

ますが、中でも特徴的なのが、隣接する立会所です。立会所とは、会議をする場所のことで、定期的に会合や食事などを行っていたと思われる。

——主屋から立会所へと入った途端に雰囲気が変わりました。欄間などの意匠がすっきりと洗練されている上に、水琴窟などが据えられた南庭を眺めることもでき、まるで料亭のような風情



主屋内の「ざしき」



立会所内の様子



南庭



米蔵跡地に建てられた展示棟外観



展示棟内の展示風景

たといわれます。その後、楠正成の末裔と伝わる楠正威が4代目城主となると、楠氏が代々の城主になりましたが、同家は引き続き、城主に仕えていました。ところが、天正12(1584)年に城主が滅びると、農民となったのです。古文書には「庄屋武兵衛 文政12(1829)年」という記述があり、このころから庄屋を務めていたと考えられます。大正時代には旧楠村の村長、昭和には旧楠町の町長を務めるなど、長年にわたって地域の行政に携わってきたのです。

辻：主屋は、奥にある蔵とともに江戸時代中ごろに建てられましたが、農家には珍しく格子があり、また、玄関入口のすぐ左側の「電話室」は、本郷地区で最初に設置されたものです。電話機自体は当時のものではありませんが、



主屋外観

ですね。ここは、楠町の人々にとって自慢の場所なのです。

辻：私たちは、岡田家から屋敷を寄付していただいた平成14(2002)年から、この輝かしい歴史と文化を残すために活動してきました。開館後は活動拠点となり、これまでに、竹灯り教室・しめ縄作り・餅つき体験などの体験教室や、ホタル

「語り部」活動※の郷コンサート・雛まつりコンサートなどのイベントを定期的に行ってきたのです。残念ながら昨年は、屋内でのイベントはできませんでしたが、しめ縄作りなどの体験教室を、屋外で行うなどの工夫をして乗り越えてきました。これからも、会員22名で協力しながら、町の歴史と文化を守っていききたいと思っています。

——ありがとうございます。岡田家の古文書に加えて、埋蔵文化財や農耕器具なども数多く展示された同館には、楠町の魅力が詰まっています。

インタビュアー：中村真由美

※印の写真は取材先から提供していただきました